

特別寄稿

「AMD Aの理念」

—してあげるのではなく一緒にやること—

昭和四十年卒 菅波 茂



活動することによってこそ、相互の信頼関係を築いていくことができるといふことです。

AMD Aの原点は私が高校2年生の時に見た「太平洋戦争写真集」のついでに一枚の写真でした。それは「南方戦線で浅瀬に顔を半分うずめて死んでいた同世代の日本兵の死」でした。なぜ彼は故郷遠くはなれて死ななければいけなかったのか。太平洋戦争とは何だったのか。「戦争と平和」は常に私の人生の主なテーマの一つです。AMD Aはそれに対する私の考えを現実化したものです。基本は「誰でも他人のお役に立ちたい気持ちがある。この気持ちに国境、人種、民族、文化、宗教等々の壁はない。互いのこの気持ちを活かせるよう、現地の団体や人々とともに活動していく。援助を受ける側にもプライドがあるのだ。一方的な援助ではなく、いっしょに助け合っ

て活動することによってこそ、相互の信頼関係を築いていくことができるといふことです。

また国際社会で活動する上で一番大切なことは「説明」です。どんな人道援助も受け取る側がその理由を理解できなくてはいけません。説明の無い親切は相手に警戒感や不快感を与えるのが国際社会です。1995年5月のサハリン大地震被災者に対する日本政府の援助をエリティン大統領は拒否しました。理由は「日本は北方4島を取り返すための材料にするにちがいない」ということでした。いかに説明をしたらいいのでしょうか。

本には平和を志向した憲法がありま  
す。憲法9条の「平和」は日本人の  
コンセンサスですが、世界のコンセ  
ンサスにしてもおかしくありません。  
国連も平和を志向した憲章をもって  
います。その違いは平和を守る手段  
としての武力行使を積極的に認めて  
いるかどうかです。日本の憲法の平  
和志向を裏づけるのは武器の輸出を  
事実上禁じた「武器輸出三原則」の  
法律です。これは日本が世界に誇れ  
る法律です。武器は最高に付加価値  
の高い商品です。にもかかわらず金  
稼ぎに使わない。これは非常にわか  
りやすい理念と実践です。日本は世  
界に向かって「平和」の実現のメッ  
セージを自信をもって発信し続ける  
べきです。AMD Aの理念は憲法第  
9条の「平和」を「人道援助活動に  
よって築かれた相互信頼」によって  
創出することです。

「平和」とはどの様なものでしょ  
うか。世界のどこに行っても、世界  
の誰でも同じように大切にしてい  
る価値があります。それは「今日  
の家族の生活と明日の家族  
の希望」です。これは日本で  
もアメリカでもアフリカの国々  
でも同じです。それを実現で  
きる状況のことを「平和」と  
いいます。平和とはただ戦争  
が無い状態というだけではあ  
りません。「今日の家族の生  
活と明日の家族の希望」を妨  
げる要因が3つあります。そ

**プロフィール**

1946年12月29日 広島県深安郡生まれ51才  
誠之館高校卒  
岡山大学医学部卒業

**職歴**

岡山大学医学部第一内科入局  
心臓病センター柳原病院勤務  
菅波内科医院開業  
老人保健施設「すこやか苑」開設  
東京大学大学院非常勤講師(国際地域保健学)  
岡山県立大学大学院非常勤講師

**社会**

タイ国カンボジア難民キャンプ視察  
AMD A(アジア医師連絡協議会)を設立  
AMD A国際医療情報センター関西設立

れは戦争、災害と貧困です。戦争な  
どの紛争は「難民」を生み、災害は  
「被災者」を出し、貧困は「餓死者」  
などを出します。いずれの状態にお  
いても「今日の家族の生活と明日の  
家族の希望」が打ち砕かれています。  
災害と貧困に対する人道援助活動は  
「平和」を願う日本の世界への明確  
なメッセージです。メッセージを発  
信し続けることが日本への「信頼」  
を生みます。

1984年に発足したAMD Aは  
現在までに20カ国に支部を持ち、  
これまでに40の国々で医療、教育  
などの支援活動や災害時の緊急救援  
活動を実施していますが、このよう  
な信頼関係を保ちつつ、相互扶助思  
想に基づく人道援助活動を世界中の  
人達と共に実施するネットワークづ  
くりを進めていくことは今後の  
AMD Aにとって不可欠です。

そしてそれらの活動を通じて日本  
は「人道援助」ネットワークの拠点  
にもなりうるのです。